

会報

No. 60

平成15(2003)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075)762-4655

「子どもに本の楽しみを」

大正大学教授 中多泰子

子どもが本と出会い、本の世界が楽しいと感じるようになるには、大人の働きかけが必要である。子どもは大好きな肉親などに抱いてもらつて、絵本をくり返し読んでもらい、その楽しい世界を読み手のイメージをとおして、共有共感することから

本が大好きになっていく。なによりもまず、大好きな人が自分の傍らにいて、自分のために読んでくれるこ

とがうれしいのである。

本を読んでもらう時、読み手と聞き手のあいだには、日常生活とは異なる別世界がひろがり、時空を超えて楽しい豊かな時間がながれる。そもそも、読み手の声や表情をとおして、本の世界のメッセージを受け取り、喜びが深まっていく。文字を知り、ひとり立ちの読書ができるようになって



も、本を読んでも

もはるかに多くのメッセージが伝わるからであろう。自分で読めるようになつても、小学校四・五年生くらいうまでは親子で交互に読みきかせをする親子読書を続けることが望ましい。

読んでもらうと、ひとりで読むよりも、本で読んだ自分と同じような状況を思い出すことによって、自分をする親子読書を続けることができる。

子どもの読書は、社会の文化と伝統を継承していく上で、きわめて大切な営みといえる。親から子へ、子から孫へと、子どもたちに子どもの本をとおして文化と伝統が継承されていくことは、社会全体の出版文化を支えていくことにもつながっている。一過性のベストセラーズよりも、幾世代にもわたって読みつかれていくロング・ベスト・リーダーズに注目していただきたい。これらは公共図書館には常に備えられているし、備えておかなければならないコレクションである。

子どもの本の出会いを豊かにしていくためには、地域社会の公共図書館と学校図書館の整備充実が必要であることは明白である。

選びぬかれたコレクションと児童サービス担当者があるオアシスのような図書館が、子どもの身近かに備されるべきである。

冒險・推理物語で血を沸かせ、科学の本では探究する喜びを味わう。スポーツ・料理・手芸・趣味の実用書など、あらゆるジャンルの子どもの中にはさまざまな人生、生き方があることを知る。

大人から

質の良い読書の楽しみのなかで、想像力、思考力を働かせ、視野を広げ、自己の価値観や生きる力を形成していくことができるようになる。そして、それは創造力へつながっていく。

人生において困難な場面に遭遇しても、本で読んだ自分と同じような状況を思い出すことによって、自分を客觀化して問題解決ができる力を身につけることができる。

京都府子ども読書活動指導者研修会

(平成十四年十一月二十七日(水)、十二月六日(金)、十二月一日(木)開催)

本年度の京図連協実務研修会を兼ねた「京都府子ども読書活動指導者研修会」が、子どもゆめ基金助成事業として、南部(平成十四年十一月二十七日(水)於文化パルク城陽)、

中部(同十二月六日(金)於ガレリアかめおか)、北部(同十二月十二日(木)みやづ歴史の館)の府内三カ所で開催され、各会場とも約百名の参加者がありました。

研修会は、午前が「子どもの成長・発達と本」と題した講演(南・北部/梓加依先生、中部/岩崎れい先生)、午後がブックトーク講習会(南・中部/北畠博子先生、北部/梓加依先生)という二部構成で行われました。

講演の中では梓先生、岩崎先生とともに、なぜ、そもそも(読み聞かせを含む)読書が子どもの発達・成長に大切なのかという根本的な問題を学術的な成果を踏まえて話され、その事に対する図書館や学校、親の役割について話されました。

一方、ブックトーク講習会で北畠先生は、本だけでなく、手作りのお

もちやなどで子どもたちの関心を引き付けるコツを、梓先生は、ブックトークをあまり難しく考えず、自分も楽しむことを強調されておられました。

実際、講習会では先生方の実演があり、参加者もついついこれが研修

「子ども達に本との楽しい思い出を作つてあげてほしい。それは決して消えることのない宝物となるから。」

この言葉を聞いて思い出すのは、今は大学生、高校生となつた私の子ども達が、たまに小さな時に絵本を囲んで過ごした時間を楽しそうに話すことです。生活の中で、かつて読んだ絵本に出会うと、その絵本といっしょに昔のことが鮮やかに思い出されるようです。図書館の中でも、お母さんから「それは前に読んだでしょ。違うのにしなさい。」と注意されるにもかかわらず、何度も同じ絵本を借りたがる子ども達がいます。子ども達はその絵本と共に過ごした楽しい時間を繰り返し楽しみたいのでしょう。

参加者の皆さんにお願いしたアンケートによると、好意的な感想が大半を占め、非常に有意義な研修会となりました。

私たち図書館員が子ども達に直接本をすすめる機会はそんなにありません。小さな子ども達は親御さんと



北畠先生のブックトーク講習会

「京都府子ども読書活動指導者研修会」に参加して

京都市吉祥院図書館
海老原 緑

いっしょに本を選び、借りていきました。だから、ブックトークのように、直接私たちが、こんな本もあるよ、あんな本も読んでみたらと紹介できる機会というのは、もっともっと持

ちたいと思うのですが、子ども達を引き付けて、本の世界へと案内するのは結構難しいものです。北畠先生の本を読んでみると、その導入の仕

方、子ども達の興味を引くようなクイズや遊びの取り入れ方に、いつも感心させられます。私では一部分までも、本質的なところで力が足りないので、腰くだけになります。けれど、まねることからでもブックトー

クを始めていくことが、今、私が接している子ども達に、本の世界を広げてあげられることになるのだと思います。

今回、京都市近郊で二回の講習が開かれました。そのうちの一日が休館日だったこともあり、私たちの館ではみんなが参加できました。理論だとあとで本を読んだりすれば、参加できなかつた人にも何とか内容が伝わるのですが、講習だとやはりその場にいないと伝わらないものがあります。文庫の方々も大勢参加されていて、楽しい一日となりました。

平成十五年一月二十九日(水)、午前十時三十分から京都市中京区のハートピア京都に於いて、「子どもと読書を考える京都フォーラム」が開催されました。

当日はお天気にも恵まれ、午前と午後をあわせ、合計百名を越える参加がありました。府内の図書館(室)の職員の方たちはもちろん、それ以外にも学校関係者や一般の方、さらには他府県(遠くは佐賀県!)からも参加があり、会の趣旨にふさわしい雰囲気につつまれました。

午前中は、大正大学教授の中多泰子先生による基調講演「子どもの読書活動の推進に関する法律の意義について」がありました。この中で中多先生は、本法律が制定されるにいたる歴史と背景を詳しくお話し下さいました。また、学校図書室、公共図書館双方の充実と、なによりも「人」の重要性を強調されておられました。

午後からは、精華町立図書館の澤田館長をコーディネーターに、「子どもの読書活動推進のための取組み

について」と題するシンポジウムがありました。

シンポジストには中多先生をはじめ、一般の方の代表として宇治市おはなしサークルたんぽぽの岡本禎子さん、学校図書館の代表として京都市立太秦小学校の川村美津子先生、公共図書館代表として亀岡市立図書館の内藤千鶴副館長が参加されました。

まず、各シンポジストから御自身が取り組んでおられる活動の事例発表がありました。岡本さんは、乳児の三か月検診の際に行われるブックスタートについて、川村先生からは朝の十五分間読書やゲストを招いた読み聞かせ等の学校での取り組み、内藤副館長からは公共図書館と学校やボランティアとのネットワークについて、大変参考になる発表がありました。

その後、各取り組みに対する中多先生のコメントをいただいたあと、フロアから活発な意見や質問も出され、シンポジウムは非常に充実したものとなりました。

「子どもと読書を考える 京都フォーラム」 に参加して

八幡市立男山市民図書館

出口 宏子

午前の大正大学教授・中多泰子氏

の講演は、「子どもの読書活動推進に関する法律」の意義について、詳しいお話がありました。法律が制定されたのが平成十三年にもかかわらず、公共図書館における専任の児童サービス担当者の数は減り続けていました。これは、その思想に相反するものであり、都道府県・市町村の基本計

画が策定される中でどう改善されます。今後の課題の中でも話された、子どもの身近に図書館を、またどこかの図書館でも選びぬかれたコレクションが専任の児童サービス担当者の手によって子どもに結びつける児童サービスが展開される日が心待たれることです。

午後からは、三市のさまざまな形での取り組みが発表されました。まず、宇治市のブックスタートは、ボランティアの方からの発表で、懸命に取組まれる様子が伝わって、始まりばかりで問題点も指摘されており、たばかりで問題点も指摘されており、参考になりました。太秦小学校の取り組みは、先生の努力にただただ頭が下がる思いでした。亀岡市の事例は、新たな図書館施設の設置に限界がきた今、どうポイントを広げるか、子どもの近くに本を届けることの難しさが伝わってきました。



シンポジウムの模様

行政・学校は「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定と基本計画策定を機に、今こそ必要な施策に積極的に取り組まなければならぬと思います。さらに、私たち図書館員はそれを礎に子どもたちはもちろん、その親にも信頼される図書館をめざすべきだと思います。

インターネットが図書館サービスに大きな役割を果たし始めています。

ホームページを開設して利用案内や新着情報を掲載したり、WebO PACを公開したり、さらにはそれを一步進め、インターネットから資料の予約ができるようなサービスを始めている図書館もあります。

現在、府内でそのようなサービスを行っているところは宇治市と網野町がありますが、同様のサービスを検討している他の市町村もあるのではないかでしょうか。

そこで今回は、府内に先駆けてインターネット予約を始めた宇治市中央図書館にお願いして、インターネット予約の現状や悩みなどを書いていただきました。

※ ※

昨年六月に宇治市立図書館ホームページが開設され、蔵書検索、さらにインターネットでの予約ができるようになりました。

二月末現在では千二百人以上に達し、広い年齢層の多くの方がインターネット予約に興味を持たれていることが窺えます。

宇治市がこのサービスを始めたことで、府内はもとより、他府県の図書館からも問い合わせの電話を受けられるようになりました。「どのようなシステムなのか」「実際にどれ程の業務量になるのか」といった具体的な質問が多く、これから図書館サービスを考える上での関心の高さを感じられます。

しかし問題がないわけではなく、一部の利用者からは、「過去に自分が予約したものなぜ画面上に表示できないのか」「予約時での待ち人数はわかつても、その後何番目まできているのかが調べられないのは不親切だ」という声もあります。

リティの問題は、今や社会的にも周知のことですが、便利さとそういった制約は相反する点が悩みの種であり、今後の課題とするところもあります。

開設から半年以上経過した現在、今後は地域の皆さまに愛される図書館として、充実の予約を活用する人の顔ぶれが決まってきており、予約全体が大幅に伸びており、予約全体に占めるインターネット予約の割合は、毎月約二十三%となっています。インターネットでの蔵書検索は、書架にすらりと並ぶ多種多様な本を眺めて選ぶ楽しさとはまた違うものの、検索が家に居ながらにしてできることもあり、開設時の六月だけでも六百人以上の申請がありました。

LIBRARY NEWS

「開館しました」

京田辺市立中央図書館中部分室
(平成十四年十月二十日開館)

（休館日）月曜日、最終金曜日、

（開館時間）十時～十八時

（電話）0774-64-8833
京田辺市草内美泥二十二番地の二

（電話）0774-64-8833
（開館時間）十時～十八時

（休館日）月曜日、最終金曜日、

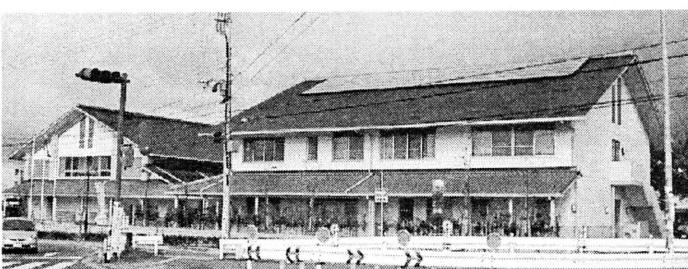
（開館時間）十時～十七時

祝日

館長からの一言

「当初の予想どおり、小学

生がたくさん



京都市子育て支援総合センター「こどもみらい館」といいます。）は、子育てに不安や悩みを持つ若い保護者の方々を支援し、安心して子どもを産み、育てるこことできる環境を整備する施策の一環として、平成十一年十二月に開館しました。

こどもみらい館は、①相談、②研究、③研修、④情報発信の四つの機能を柱としており、ボランティアの方々に各種事業に参加していただくなど、市民の皆さんのが基本とした運営を行なう「子育て支援の中核施設」です。

「こどもみらい館子育て図書館」は、このうちの④情報発信の機能を担つております。京都市の他の図書館にない

特徴として、乳児や幼児を対象とした絵本や子育てに役立つ図書、ビデオ・CDを中心に所蔵しているということがあります。現在、絵本・紙芝居等の児童書を約一万二千冊、成人書を約四千五百冊、ビデオ・CDを約二千点所蔵しており、一日平均の貸出人数は百十人余り、貸出点数

新加盟館紹介

「京都市子育て支援総合センター「こどもみらい館子育て図書館」が平成十四年十月九日付けで京図連協六十六番目の加盟館になりました。」

は四百五十点余りとなっています。館内のAVブースでは、ビデオ・CDが視聴できるようになっており、一日平均三十人余りの方に御利用いただいています。

昨年十月の京（みやこ）ライブラ

リーネットの再構築によって、京都

市図書館のネットワークに接続し、ビデオ・CD以外の所蔵資料につい

ては、他の京都市図書館でも貸出・

返却が可能になりました。京都御苑

のすぐ南側という立地の良さもあり、休日にこどもみらい館子育て図書館で本を借りて、自宅近くの図書館で返却するという利用者も多いようです。

こどもみらい館総務課長から

「ここにちは」「バイバイ」大人の語りかけに対し、赤ちゃんは笑顔を見せたり、恥ずかしがったり何らか反応します。反応から、さらに耳にする言葉を模倣し、毎日繰り返しているうちに言葉を獲得します。

こどもみらい館子育て図書館では、毎日午前と午後の一日二回、ボラン

ティアの方々の協力を得て、絵本や紙芝居などの「読み聞かせ」を行っております。心を込めての「読み聞かせ」により、こどもたちは、絵本の世界を楽しむと同時に、みらい館が発信する「愛と感動」を受信していると確信しております。子育て図書館の他に、気軽に集まり、交流し、相談や情報交換ができるフロアも

御利用ください。

K-Libnetの現状について ● 京都府立図書館

また、二月二十日付けで丹波町中央公民館図書室、三月五日

四日付けで、四館が同時にBタイプからAタイプへの移行を果たしました。これにより、京都府図書館総合目録ネットワーク（K-Libnet）へのデータの登録が終了し、二月十日

今年に入つてから順次行なった相楽四町（木津町、山城町、精華町、加茂町）図書館の初期データの登録が終了し、二月十日

四日付けで、四館が同時にBタイプからAタイプへの移行を果たしました。これにより、京都府図書館総合目録ネットワーク（K-Libnet）へのデータの登録が終了し、二月十日

付けて弥栄町公民館図書室への参加承認がおりたことで、Bタイプも二十館となり、K-Libnetへの参加館は、計四十六館（四十一市町村）を数えることとなりました。

今後の予定ですが、現在の未参加館についても、平成十五年度中のBタイプ参加を検討されていると聞いております。さらにBタイプからAタイプへの移行も、現在、野田川町タ提供館は、稼動当初の八館から二十六館と約三倍にまで増加し、データ総数（所蔵ベース）も稼動当初の約百十七万件から、ついに三百万件を越えるまでになりました。

もし、他にもBタイプからAタイプへの移行を予定されている館がありましたら、登録スケジュール等の関係がありますので、お早目に府立図書館まで御相談ください。



専門委員会ニュース

◎ 相互協力委員会

平成十四年度第二回相互協力委員会を十一月二十一日（木）午後一時半から京都府立図書館で開催した。

委員会では、「京・ライブリーネット」（WebOPAC）の稼動に伴い、京都市への貸借依頼について、至急取寄せが必要など依頼館の事情によっては、直接所蔵館へ依頼することもありうるという点で意見の一一致を見た。

平成十四年度相互協力実務担当者会議を五十名の出席を得て、平成十五年一月三十日（木）午後一時半から同じく府立図書館で開催した。

会議では、各館の相互貸借制限資料について報告があった。これは相互協力委員会の意見を受け、相互貸借依頼をスムーズに行うため、各館の貸出制限図書や新規購入図書の相互貸借開始期限の設定等を全体の共有認識とするためにまとめた資料に基づくものであった。

この他府立図書館からは、参加館の要望に基づくK-Libnetの機能向上、十五年度からの貸出文庫の手続変更について説明があった。参加各館からの発言もあり、活発な意見交換が行われた。

◎ 研修研究委員会

研修研究委員会では、委員を南・中・北部の三班に分け、それぞれの会場で行われた子ども読書活動指導者研修会を担当しました。詳しい内容は、本誌二ページにあるとおりです。

なお、指導者研修会の記録を担当し、フォーラムを含めた報告書を作成しましたので、御活用願います。

◎ 広報委員会

平成十四年度第三回広報委員会を二月七日に府立図書館で開催し、会報六十号の編集について協議を行いました。

今年度最後となる会報は、記事でも紹介しております「子どもと読書を考える京都フォーラム」において講演等お世話になりました中多先生に巻頭文をお世話になりました。公務でお忙しい中ではありましたが、とても有意義で貴重な御意見を頂くことができました。

次回からは、現メンバーも二年目となります。気持ちも新たに取り組んでいきたいと思っています。

子ども読書絵でがみコンテスト

このコンテストは、子ども読書の日（四月二十三日）にあわせ、子どもの読書活動の振興のため、子どもたちが読んだ本や読んでもらった本

の感動や印象を、はがきに絵や文字で表現することにより、表現力を伸ばし、読書意欲を高めるとともに、交流の輪を広げようとするものです。対象となる本や絵本、文字の大きさや字数、色彩の制限はありません。薄い紙またはこれに類するものは、貼りつけることができます。各公共図書館等にお配りした応募用紙、もしくは官製はがきなどで、平成十五年三月三十一日（消印有効）までに京都府立図書館「子ども読書絵でがみ」係までお送りください。連絡車で送付いただいても結構です。

最優秀賞・優秀賞・佳作・入選作品を表彰し、四月二十三日（水）から五月七日（水）まで京都府文化博物館で展示します。（入賞者には、平成十五年四月中旬に通知します。）またその後、府内の各図書館等でも巡回展示をいたします。

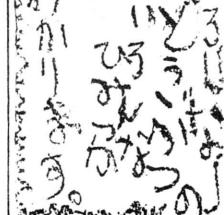
応募資格は、京都府内に在住する平成十五年三月三十一日現在で十八歳以下の子どもに限ります。

なお、お送りいただいた作品は返

昨年の応募作品

←「どうぶつのもんだい」
宮木 優さん

「ローワンと伝説の水晶」
芥川葉子さん



編集子

前任者から引き継ぎ、今年度予定していた会報を五十八号、五十九号、六十号と無事発行することができます。これも皆様の御協力のおかげと深く感謝しております。

これからも、より皆様に親しくないただけるような会報づくりに努めてまいりたいと思っておりますので、御意見、御感想、また、こんなことをとりあげてほしい、などなど、どんどんお寄せください。